Care Service Co., Ltd.

株主・投資家の皆様へ　2025.4.1 ▶ 2026.3.31

ケアサービス便り

Letters from June 2026 CARE SERVICE CO., LTD.



証券コード：2425

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
「ケアサービス便り」お届けにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長　**福原 俊晴**

2026年3月期の振り返り

2026年3月期は、当社の主要サービスにおいて各事業の構造課題への対応の遅れが顕在化し、また事業展開地域の状況や従業員の過不足などを勘案し、事業所の統廃合を進めたことにより前期比で減収減益となりました。

在宅介護サービス事業では、主力サービスであるデイサービスにおいて拠点間の業務品質のバラつきが生じたことにより利用者数の伸びが鈍化し、訪問入浴サービスでは人員不足に伴う車両稼働台数の減少により、いずれも件数、売上高ともに減少しました。

シニア向け総合サービス事業では、エンゼルケアサービスにおいて引き続き新規エリアへの出店を積極的に進め4事業所開設した一方で、全国的に葬儀件数が前期比で減少した影響を受け、当社サービスの施行件数が減少したことにより減収となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高は9,217百万円(前期比6.3%減)、営業利益は131百万円(前期比75.3%減)、経常利益は162百万円(前期比71.0%減)、当期純利益は115百万円(前期比62.7%減)となりました。なお、中国子会社の解散に伴い、2026年3月期第2四半期より非連結決算へ移行いたしました。

長期ビジョン、中期経営計画(Care2030)の策定について

はじめに、当事業年度の減収減益という結果によって、ステークホルダーの皆様に対して多大なるご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。この結果は、当社に強い危機感を呼び起こし、今後の私たちのあるべき姿を改めて考え直す大きな契機となりました。収益構造の改善はもちろんのこと、事業オペレーションの見直し、これまで積み上げた手元資金の成長投資への活用など、私たちがこれから向き合うべき構造的な課題はすでに顕在化しています。1970年に創業した当社は、今まさしく第二創業期として新たな階段を登るべき時期を迎えています。

そこで、2027年3月期を迎えるにあたり、当社の長期

● 課題の認識と、第二創業期への布石

01

構造課題の明確化

デイサービス、訪問入浴、エンゼルケアの重点3事業すべてで、対応の遅れが顕在化

- デイサービス：拠点運営の標準化不足
- 訪問入浴：採用競争の劣後
- エンゼルケア：エリア依存リスク

02

財務体力という余力

長期の保守的投資の結果として、自己資本比率は76.4%まで積みあがった

- 純資産2,953百万円
- 自己資本比率+5.5pt
- 十分な投資余力

03

転換への意思

保守的投資姿勢から転換し、財務体力を中期経営計画（Care2030）に集中配分する 関連 ▸5〜6ページ

- 保守 → 積極へ
- 蓄積した資本を戦略投資へ
- 「3つの約束」の実装

ビジョンと、2031年3月期までの5年間の中期経営計画（Care2030）を新たに策定いたしました。中期経営計画では、当社が次の5年間で改めて成長軌道に乗るまでの基盤整備のロードマップを描いています。そして長期ビジョンでは、未来における当社の存在意義を記しています。関連 ▸3〜6ページ　未来を予測することで、当社が向かうべき方向性はどこにあるのか。歴史から学ぶことで、当社は何を変えるべきか。そして、将来においても私たちが守り続ける使命や果たすべき役割は何なのか。これらに向き合い策定いたしました。

超高齢社会の到来とともに、さまざまな変化が社会に押し寄せています。労働人口の減少や物価高騰などの課題が継続する一方で、テクノロジーの進化により、AIやロボットと共存する社会が日常になりつつあります。

テクノロジーによって社会が便利になる一方で、「暮らし慣れた場所で最期を迎えたい」という多くの方の願いと現実の間には大きな距離があり、大半の方はご自身が望む場所で人生の最期を迎えていません。

すべての人が、暮らしたい場所で安心して生きるための支えとなる唯一無二の存在として、私たちケアサービスは、在宅介護から自宅での看取り、そしてグリーフケアまで、人生を「ケア」で包み続けます。

「人が人を想い、寄り添う」その最前線にいるのが、私たちケアサービスのスタッフです。これからの未来においても、株式会社ケアサービスは社会に価値を証明し続けます。

中期経営計画の説明資料を公開しております。

詳細はこちら

https://www.care.co.jp/ir/library/mid-term_management_plan

VISION

ケアを、
世界でいちばん
幸せな仕事に。



PURPOSE

大切な人を想う力を、
社会に実装し続ける。

「自宅で最期を迎えたい」という多くの人の願いと現実の間には、
まだ大きな距離があります。

「暮らし慣れた場所で、ずっと」——
その願いに誠実に応え続けること。それが私たちケアサービスの使命です。

20

2026

MID-TERM
MANAGEMENT PLAN
関連 ▸5〜6ページ

2030

LONG-TERM VISION

2050

50年 ── 私たちが目指すケアサービスの未来

01 ケアエコノミー※の世界的な拡大に伴い、「ケア」が世界の主力産業に

ケアの価値が高まるにつれ、当社が長年注力してきたビジネスの意味が問われる

※ケアエコノミー…介護や看護、家事や育児などの「ケア」ワークに関する経済活動。ケアエコノミーの推進は、ジェンダー平等やすべての人が安心して働ける社会基盤の強化に繋がる。

02 地域ケアコミュニティの核としての機能を担う

今後の超高齢社会において、行政だけではなく、民間企業も暮らしのインフラを提供する主体となる

03 「自分が暮らし慣れた場所で最期まで生きる」ことを当たり前に

自宅で人生の最期を迎えたいという多くの人の願いに応えるためにも、在宅介護から自宅看取り、グリーフケアまでの一気通貫の支援体制を確立する

04 多様な領域に「ケア」が参入し、ビジネスが拡張

在宅介護、エンディング産業だけではなく、新たな分野でも「ケアの先駆者」として、国内外で開拓を続ける

05 介護や葬儀などの「思いを届ける手仕事」が最も価値ある人間の営みに

2050年までに、人間とAIの役割分担が完成。人間の感性だけでしか成しえない「人が本気で寄り添い、感じ、向き合う」本来の役割に立ち戻ることが世界で最も尊い行為となる

これからの5年間 — 重点事業の変革で次の時代の

3つの約束ー事業への資本配分方針

改革
＝
既存事業の構造改革の断行

採算性・将来性を基準に拠点ロケーションを再構築し、事業運営の標準化で収益構造を立て直す

拡大
＝
既存サービスの新エリア展開

立て直しで確立したモデルを、市場ニーズに沿った形で新エリアに展開する

人と技術
＝
全社共通の経営基盤

人と技術が今後の「改革」と「拡大」を支える経営基盤
・自立型チーム制への段階的移行
・継続的な教育投資
・海外人材登用の基盤整備
・ICT活用による業務標準化



組織基盤の再構築 土台を固める

- 収益性回復と持続可能な基盤再構築
- 働き手確保と稼働の両立
- ICT基盤整備による運営効率向上

既存事業の拡張期 芽を出す

- 既存拠点の改修・統廃合・移転
- 葬儀多様化に対応したサービス再設計
- 配車・運行効率の最適化による稼働率向上

エリア・収益の拡大

- 好事例拠点のモデ
- 全国の主要都市
- 既存事業と親和性の

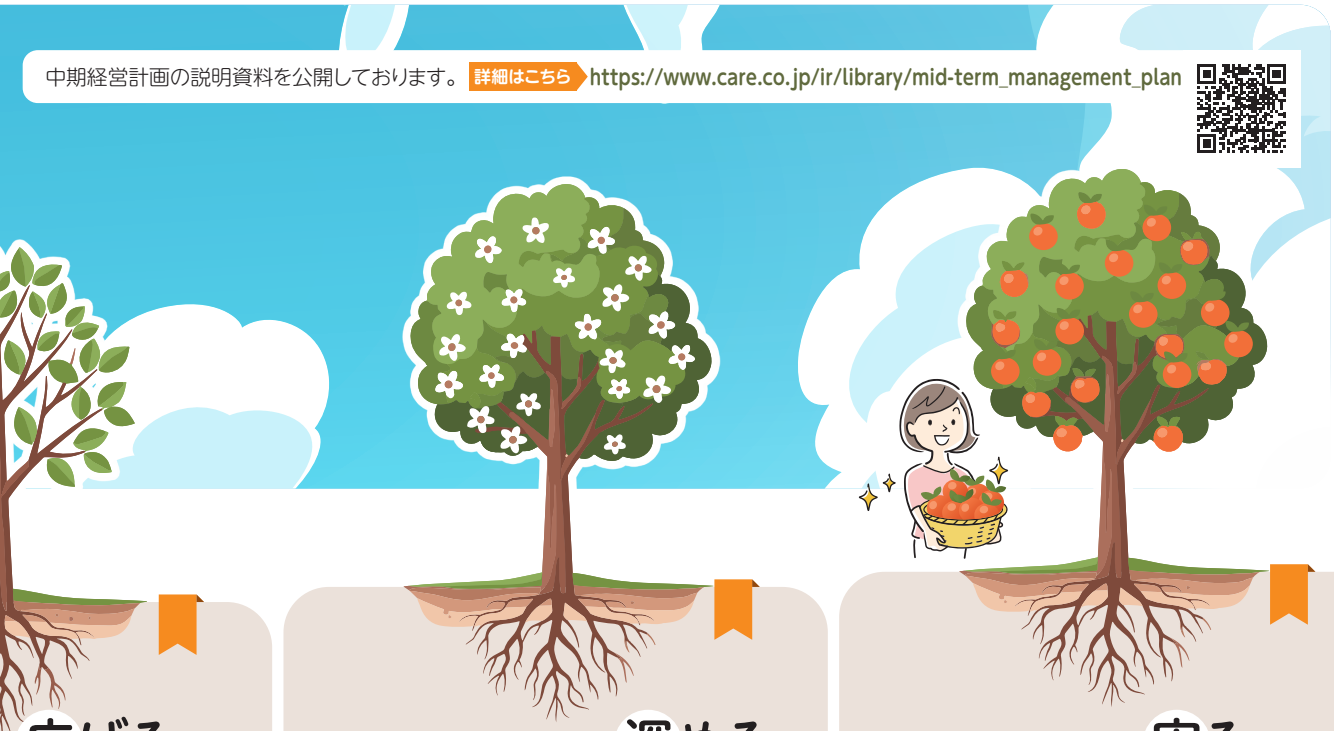
●全社　●在宅介護サービス事業　●シニア向け総合サービス事業

土台を築く

● 重要目標達成指標（KGI）

2026年3月期 実績		2031年3月期 目標			
売上高	92.2億円	売上高	112.3億円	ROE※	10%
営業利益	1.3億円	営業利益	6.4億円	配当性向	30%

中期経営計画の説明資料を公開しております。 詳細はこちら https://www.care.co.jp/ir/library/mid-term_management_plan



広げる

- ル化で新エリア進出
- への段階的進出
- 高い事業への探索的投資

ケアの質向上と地域連携 深める

- 利用者層を広げるサービス提供形態の多様化
- 地域ごとの協業・パートナーシップの活用
- 自立型チーム運営の全国展開

ビジョン実現へ 実る

- 安心と尊厳を支えるケアの品質
- ケア人材の確保と育成
- ケアワーカーが誇りを持って働ける環境

※新リース会計基準の当社適用は2028年3月期より。本計画の数値は新リース会計基準を適用せずに算出しております。

特集 2
「在宅介護サービス事業」のサービス

在宅介護サービス事業

- 居宅介護支援
- デイサービス
- 訪問入浴 訪問介護 訪問看護
- 小規模多機能型 居宅介護
- 福祉用具 貸与・販売

居宅介護支援

「介護が必要になっても自宅で生活したい」その思いをケアマネジャーが支えます！

サービス概要

介護サービスを利用できるように、ケアマネジャーが一人ひとりに合わせてケアプランを作るサービスです

市場環境

- 高齢者人口の増加に伴い、ケアプラン作成のニーズも増加
- ニーズの増加に対しケアマネジャーが不足しているため「ケアマネ難民」などの問題も

当社の強み

- 自社の介護サービスを通じて、より深く介護の現場を知るケアマネジャーが、お客様の要望を実現するための柔軟なケアプランの作成を行います



Staff's Voice



高齢になっても住み慣れた地域で自立して生活できるように、介護に関すること以外にもその地域の行政サービスや医療サービス、福祉・生活支援サービス、自治会や地域の活動などさまざまな情報を集めています。介護が必要になっても希望や目標を叶えたり個別の問題を解決できるように、多様なサービスの中から一人ひとりに合わせて必要なサービスを組み込み、ケアプランとしてご提案しています。

シニア向け総合サービス事業

配食サービス　シニア向け施設紹介　クリーンサービス　エンゼルケア

福祉用具貸与・販売

24時間365日
「いつもの生活」をサポート!

サービス概要

車いすや介護ベッドなどのレンタルから、介護で使用する生活用品の販売、ときにはリフォームの提案まで、介護環境を整え、日々の生活を支えるサービスです

市場環境

- 要支援、要介護者の約7割が杖や歩行器などの福祉用具を利用していて利用率が高い
- 介護保険外の製品や施設向け設備も含めると市場が大きく、サービスの選択肢が豊富

当社の強み

- 当社の大きな特長は、複数展開している介護サービスとの連携力です
- お客様の状態の変化や生活課題をいち早く共有し、福祉用具の見直しや追加提案を迅速に行うことができます



Staff's Voice



お客様のお住まいや生活スタイル、身体の状態によって、必要な福祉用具は一人ひとり違います。販売して終わり、レンタルして終わり、ではなく、定期的に訪問し、お客様の状態の変化に合わせて細かな用具の調整を行うことで「いつも変わらず快適に使える」ように心掛けています。

業績ハイライト

（単位：百万円）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 予想	2027年3月期 前期比
売上高	9,573	9,841	9,217	9,527	3.4% ↑
営業利益 (利益率：%)	509 (5.3)	533 (5.4)	131 (1.4)	14 (0.1)	88.8% ↓
経常利益 (利益率：%)	564 (5.9)	558 (5.7)	162 (1.8)	136 (1.4)	16.1% ↓
当期純利益 (利益率：%)	379 (4.0)	308 (3.1)	115 (1.2)	77 (0.8)	33.1% ↓
配当金(円)	16.00	20.00	22.00	22.00	−
配当性向(%)	16.0	24.6	72.5	108.4	−

1株当たり情報

（単位：円）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
1株当たり純資産(BPS)	703.06	768.41	778.76
1株当たり当期純利益(EPS)	99.92	81.35	30.34

投資収益性指標

（単位：%）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
自己資本利益率(ROE)	15.1	11.1	3.9
総資本利益率(ROA)	10.2	7.7	2.9

※2026年3月期より非連結決算へ移行したため、2025年3月期以前につきましても、単体ベースの数値を記載しております。
※予想につきましては、当社が現時点において合理的と判断するデータに基づいて作成しており、そのため不確定要因や今後の事業展開における状況変化等により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

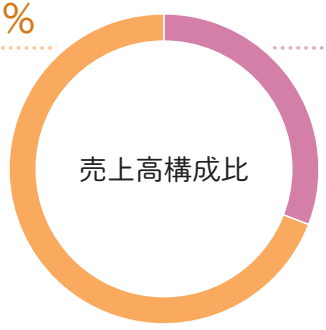
2026年3月期 セグメント別の業績

在宅介護サービス事業 69.1%

売上高 63億65百万円
セグメント利益 1億88百万円

POINT

- 各サービスの地域の状況、サービス提供状況等を総合的に勘案し、事業所の統廃合を実施
- デイサービス、訪問入浴では件数、売上高がともに減少



シニア向け総合サービス事業 30.9%

売上高 28億51百万円
セグメント利益 6億43百万円

POINT

- エンゼルケアサービスで4事業所を開設
- 上半期に全国的に葬儀件数が減少した影響で、エンゼルケアサービスの施行件数が減少

※2026年3月期より非連結決算へ移行したため、売上高及びセグメント利益については、前期との比較は行っておりません。

会社概要（2026年3月31日現在）

名　　称	株式会社ケアサービス
代 表 者	福原　俊晴
本　　社	〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目2番3号 大森御幸ビル TEL：03-5753-1170
創　　業	1970年10月5日
資 本 金	205,125,000円

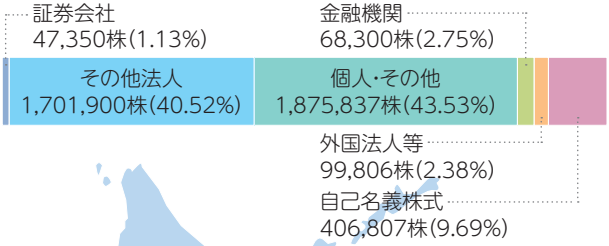
取締役および監査役の状況（2026年6月23日現在）

代表取締役社長	福原　俊晴	常勤監査役	日詰　祐子
取締役	福原　花枝	社外監査役	福森　久美
社外取締役	藤好　優臣	社外監査役	長沼　敏之
社外取締役	園部　洋士		

株式の状況（2026年3月31日現在）

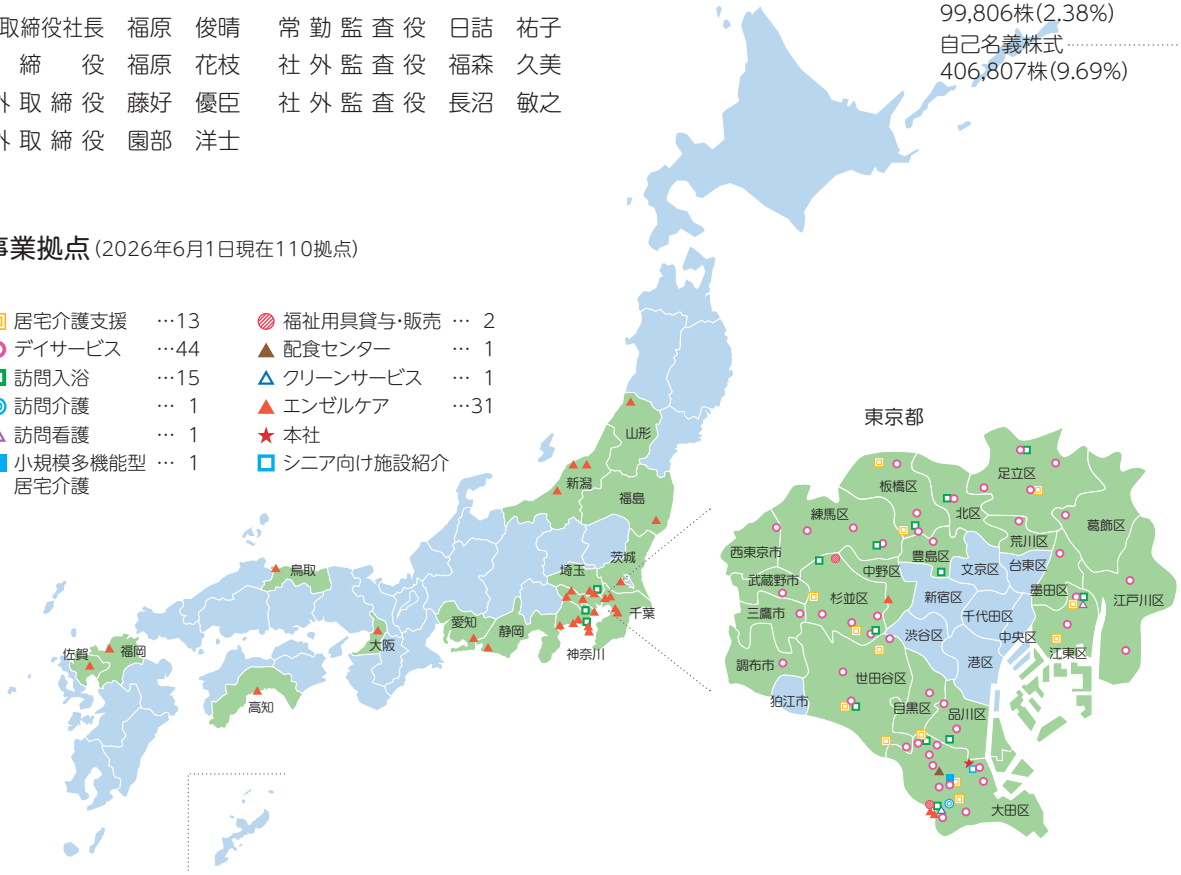
発行可能株式総数	16,800,000株
発行済株式の総数	4,200,000株（自己株式406,807株を含む）
株　主　数	4,603名

所有者別株式分布（2026年3月31日現在）



事業拠点（2026年6月1日現在110拠点）

居宅介護支援	…13	福祉用具貸与・販売	… 2
デイサービス	…44	配食センター	… 1
訪問入浴	…15	クリーンサービス	… 1
訪問介護	… 1	エンゼルケア	…31
訪問看護	… 1	本社	
小規模多機能型居宅介護	… 1	シニア向け施設紹介	



株主メモ SHAREHOLDER MEMO

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 そのほかに臨時に必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目４番５号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス https://www.care.co.jp/

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C022915
www.fsc.org
GREEN PRINTING JPPI
P-A10007
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。
UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

株式会社 ケアサービス
本社　〒143-0016
東京都大田区大森北一丁目2番3号 大森御幸ビル
TEL：03-5753-1170
https://www.care.co.jp/

ホームページのご案内

当社のホームページでも、サービス紹介や事業所案内、IR情報など詳しい情報を開示しております。是非ご覧ください。

ホームページはこちら

https://www.care.co.jp/



トップページ

IR情報はこちらから



当社のホームページでは、開示が可能となったIR情報を速やかに発表しております。

https://www.care.co.jp/ir/　ケアサービス IR

ケアサービスIRメールのご案内

メールアドレスをご登録いただくと、最新のIR関連情報のお知らせをメールで受け取れるサービスです。

ご登録はこちらから

https://www.care.co.jp/mailnews/